

茨城県

育成会だより

第 144 号

発行日 令和3年7月10日
発行 一般社団法人
茨城県手をつなぐ育成会
編集 広報委員会
事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918
茨城県総合福祉会館内
☎ 029-243-3838
FAX 029-243-3854
URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



オンラインでのミュージックケアの様子



タブレットを利用した余暇支援



ろうそく作成の様子



旅行での一コマ

社会福祉法人茨城補成会

涸沼学園集まれガッツ村の取り組み

涸沼学園集まれガッツ村 施設長 久米亮太

茨城補成会は昭和14年に司法保護団体として戦争孤児の施設を開設し、その後児童養護施設、障害児入所施設、グループホーム、障害者支援施設、就労事業所としてフレンチレストランの開設などを経て**80年以上の歴史があります。**

涸沼学園集まれガッツ村（入所32名生活介護60名）では法人の理念「まちをつくる」を実践するために様々な取り組みをしています。

地域の役割を担うことを目的としたガッツ村定期便では利用されている方々が日々作成している製品（雑貨類や野菜等）をお届けするサービスを始め多くの方に登録していただいています。又コロナ禍で外部との接触ができないためオンラインで様々な専門家とつながって支援をする取り組みも始めています。

障害者施策が日々進んでゆく中、利用者の方々も変化しており、今までの障害者支援施設の役割では求められるニーズに対応できなくなってきました。今まで歩んできた歴史は古いですが、一歩進んだ新しい取り組みを率先して取り入れて行きたいと考えております。

（連絡先）東茨城郡茨城町大字上石崎4668-2
電話：029-293-7401



「ウィズコロナ」の中での育成会活動について

— 令和3年度定時総会は書面決議とす —

県育成会会長 矢野 清

各単位会長並びに会員の皆様、日頃より県育成会の活動にご理解、ご支援をいただきありがとうございます。

さて、昨年来の新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）の拡大による自粛要請や予防対策などにより、社会生活にも様々な制約が生じており、県育成会活動も事業計画の中止や見直しなどを余儀なくされております。特に、昨年度は多くの方が集まる研修会や講演会は全て中止とさせていただきました。

新年度を向かえましたが、未だ新型コロナの収束は見通せない状況が続いております。このため、去る5月13日に開催した第1回理事会において、定時総会の開催を検討しまして、誠に残念ながら、令和3年度定時総会につきましては、書面による決議と決定させていただきました。

令和3年度は、「ウィズコロナ」「新しい生活様式」を踏まえながら、引き続き「**親なき後**」の対応とともに、県育成会の活動をより多くの方に理解してもらえよう地域交流活動も推進してまいりたいと考えております。

各単位会長並びに会員の皆様には、何卒、ご了解をお願いいたしますとともに、今後とも県育成会活動にご協力くださいますようよろしく御願ひ申し上げます。



矢野会長

令和3年度重点テーマ

今年度は、次のテーマについて重点的に取り組むこととします。

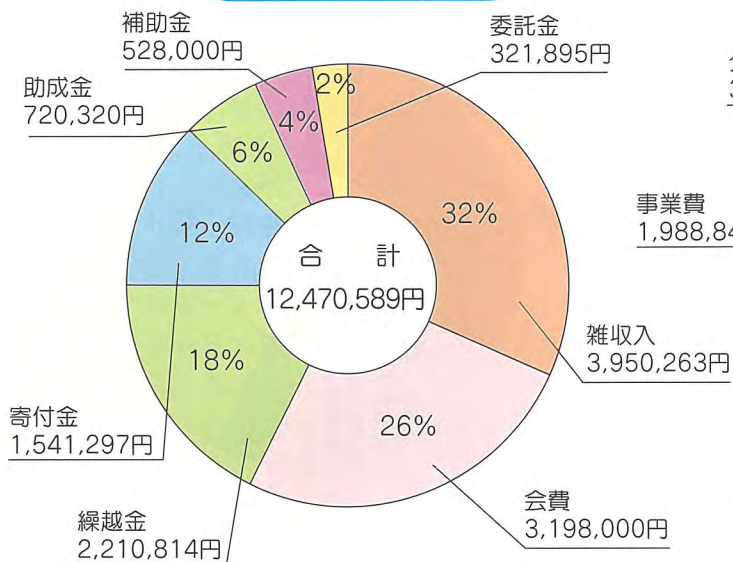
特別支援学校、
特別支援学級等との
地域交流活動の推進

若い世代の
ニーズの把握
及びニーズに
即した事業の展開

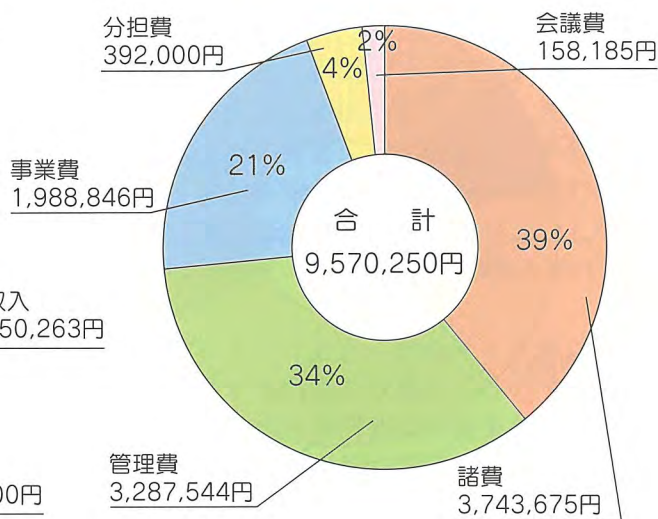
ホームページの
活用等による
地域育成会への
充実した情報提供

令和2年度決算報告概要

一般会計収入の部



一般会計支出の部



期間 自：令和2年4月1日
至：令和3年3月31日

【一般会計収入の部】

単位：円

項目・収入額	主な内容	金額 (円)
会費 3,198,000	地域育成会	3,012,600
	社会福祉協会	10,000
	特別支援教育研究部	132,400
	知的障害特別支援学校	19,000
	賛助会員	24,000
補助金 528,000	県補助金	360,000
		168,000
委託金 321,895	ボランティア活動参加促進事業	109,000
	相談員活動強化事業	212,895
助成金 720,320	共同募金配分金	350,000
	地方活動助成金	220,320
	いばらき障害者生活サポート協会	150,000
寄付金 1,541,297	茨城県 PTA 連絡協議会	100,000
	茨城県遊技業協同組合	50,000
	茨城新聞文化福祉事業団歳末愛の募金	100,000
	心のとも運動	1,291,297
雑収入 3,950,263	銀行利息	63
	7月豪雨災害義援金	158,000
	7月豪雨災害活動支援基金	62,200
	台風19号お見舞金	3,510,000
	育成会だより広告掲載料 (JIC)	100,000
	育成会だより広告掲載料 (ぜんち共済)	100,000
	令和元年度支払分返済金 (DPI)	20,000
繰越金		2,210,814
計		12,470,589

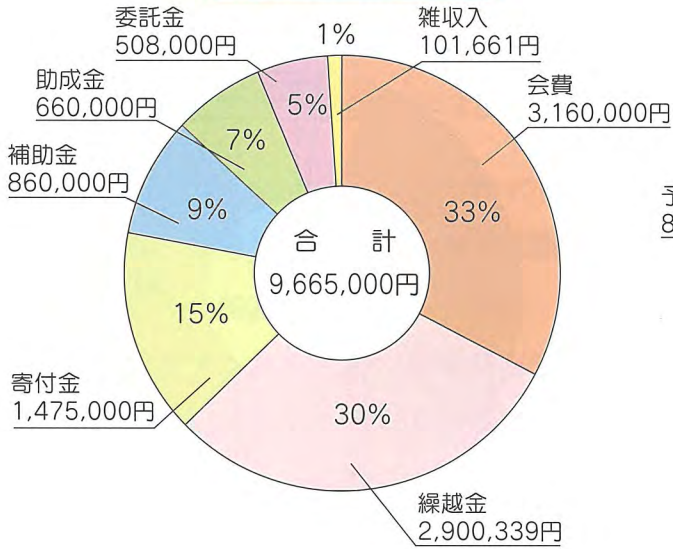
【一般会計支出の部】

単位：円

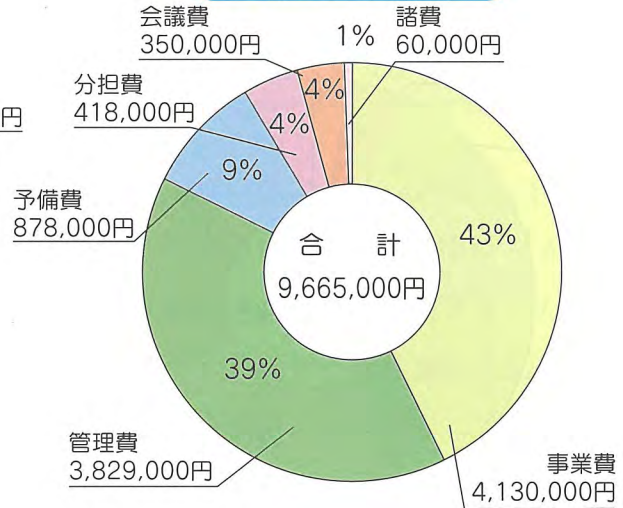
項目・支出額	主な内容	金額 (円)
会議費 158,185	理事会	158,185
事業費 1,988,846	研修費	184,109
	大会費	0
	専門委員会費	309,965
	手をつなぐくらの作品展	240,000
	組織強化費	234,975
	啓発推進	564,387
	代表者派遣費	12,670
	団体助成費	61,353
	本人部会育成費	22,230
	相談研修事業費	212,895
地域交流費	146,262	
管理費 3,287,544	旅費	22,460
	需用費	248,995
	役務費	158,540
	人件費	2,663,605
	借用損料	193,944
分担金 392,000	分担金	392,000
諸費 3,743,675		3,743,675
予備費		0
計		9,570,250

令和3年度予算概要

一般会計収入の部



一般会計支出の部



期間 自：令和3年4月1日
至：令和4年3月31日

【一般会計収入の部】

単位：円

項目・収入額	主な内容
会費 3,160,000	地域育成会 3,000,000
	社会福祉協会 10,000
	特別支援教育研究部 131,000
	知的障害特別支援学校 19,000
補助金 860,000	県福祉団体補助金 360,000
	県福祉団体等支援補助金 500,000
委託金 508,000	ボランティア活動参加促進事業 158,000
	相談員活動強化事業 350,000
助成金 660,000	共同募金配分金 310,000
	地方活動助成金 200,000
	いばらき障害者生活サポート協会 150,000
寄付金 1,475,000	茨城県 PTA 連絡協議会 100,000
	茨城県遊技業協同組合 25,000
	茨城新聞文化福祉事業団歳末愛の募金 150,000
	心のとも運動 1,200,000
雑収入 101,661	銀行利息 1,661
	広告掲載料 100,000
繰越金	2,900,339
計	9,665,000

【一般会計支出の部】

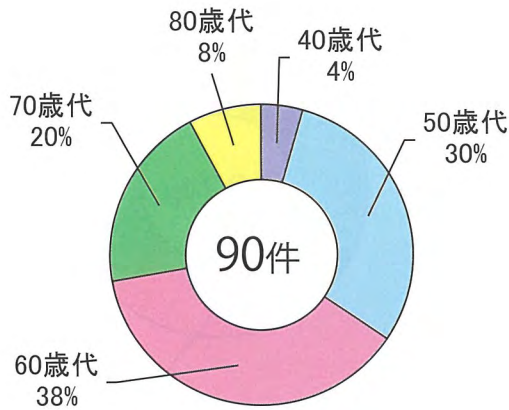
単位：円

項目・支出額	主な内容
会議費 350,000	理事会 290,000
	総会等 60,000
事業費 4,130,000	研修費 400,000
	大会費 500,000
	専門委員会費 980,000
	手をつなぐ子らの作品展 240,000
	組織強化費 480,000
	啓発推進 620,000
	代表者派遣費 200,000
管理費 3,829,000	団体助成費 360,000
	相談員研修事業費 350,000
	旅費 50,000
	需用費 400,000
分担金 418,000	役務費 214,000
	人件費 2,966,000
	借用損料 199,000
繰出金	0
諸費	60,000
予備費	878,000
計	9,665,000

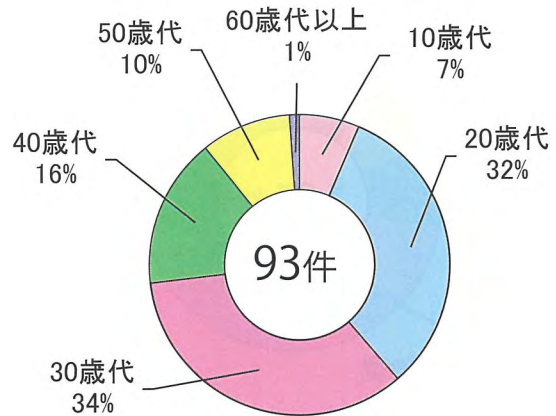
(レポート研修会 参考データ)

1. 現在の状況について

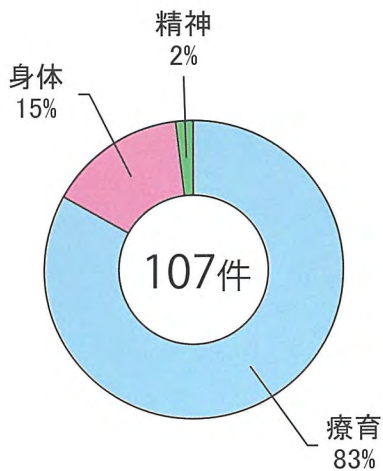
1-1. 回答者の年齢



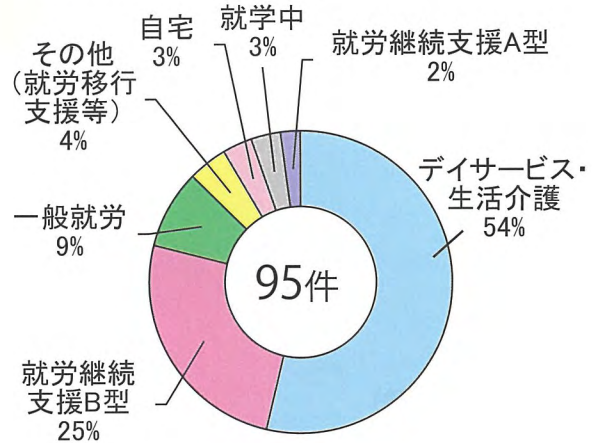
1-2. 障害児者の年齢



1-3. 手帳の種類(複数回答)

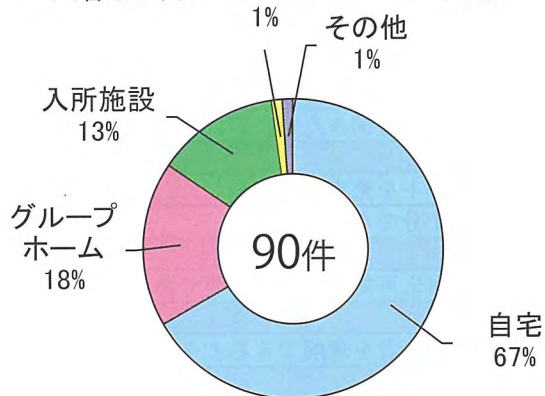


1-4. 日中活動の場(複数回答)

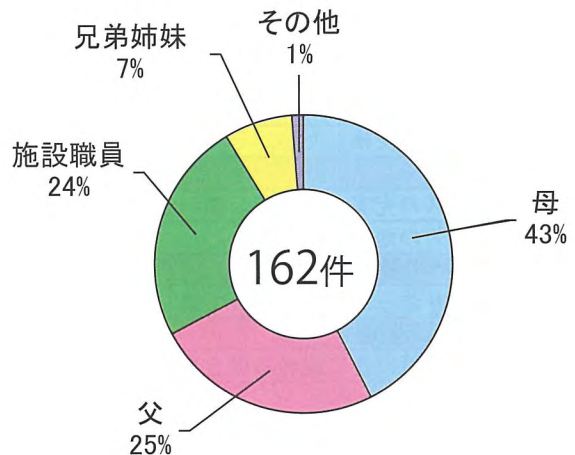


1-5. 夜間生活の場

一人暮らし(ホームヘルプサービス利用)

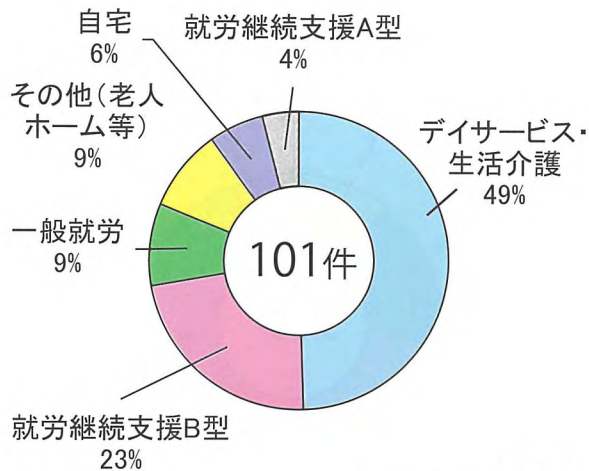


1-6. 主な支援者(複数回答)

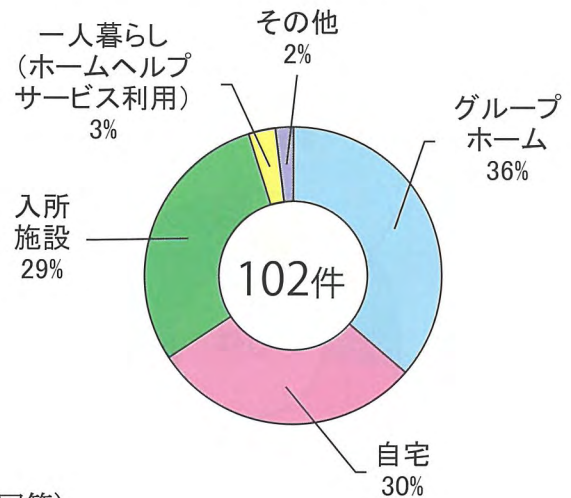


2. 10年後の将来について

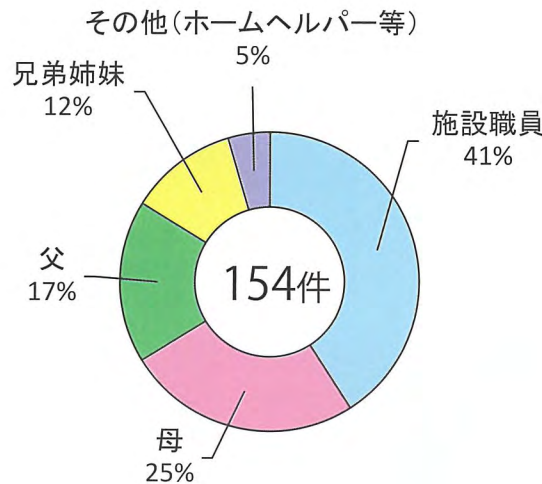
2-1. 日中活動の場(複数回答)



2-2. 夜間生活の場(複数回答)



2-3. 主な支援者(複数回答)



3. その他(自由記載)

新型コロナウイルス感染症に関すること	
症状や後遺症について知りたい。	本人のマスク装着が困難である。
ワクチン接種が不安である。	ワクチン接種に関する情報(副反応、時期)が欲しい。
様々な福祉サービスが中止され、本人や家族の負担である。	コロナ禍、本人たちはどのような暮らしを強いられているのか情報交換したい。
本人や家族が感染した場合の情報(入院先はあるか、支援はあるか、過ごし方)知りたい。	感染拡大で帰省できないことが、親なき後の施設での練習になっているかもしれない。
育成会への要望	
ZoomによるWeb研修に取り組んで欲しい。	他のテーマでのアンケートを実施して欲しい。
法律や様々な制度について知識を深めたい。	コロナ終息後に施設見学をしたい。
他の会員と情報交換したい。	他の会員の体験談を聞きたい。
行政への要望	
福祉サービスの充実・強化をお願いしたい。	災害時のサポートを充実させて欲しい。
福祉サービスの地域格差がある。	福祉の予算が十分でない。
入所施設等への要望	
障害者に寄り添った施設であって欲しい。	様々な障害に対応可能な施設が必要である。
地域の人々への要望	
地域の人々に障害者に関わる機会を持ってもらいたい。	地域の人々が障害者を理解できるよう、働きかけたい。
その他	
本人の社会的自立を促すため、親は子を手放す努力をしたほうがよい。	入所施設を否定する人がいるが、障害の種類や程度によっては、必要な施設である。

令和2年度「レポート研修会」について

研修委員会委員長 嶋田みち子

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症によって生活様式が変化した1年でした。研修委員会が企画する会員対象の研修会も例外ではありません。令和2年度の研修会は、当初計画していた集合形式の研修会開催が困難であることから、在宅で行う「レポート研修会」へ変更しました。平成30年と令和元年に行った綿祐二先生（日本福祉大学教授・社会福祉法人睦月会理事長）の講演会が好評であったことから、今回のレポート研修会はこの2回の研修会の資料を活用することにしました。綿先生に連絡をとった上で研修委員会において研修用資料を再構成し、先生の研修会へ参加した方々を対象に資料を送付して「将来を見据えて親・家族として何をすべきか」をテーマにレポート報告書を提出いただき、90名の方より回答を得ました（回収率：80.4%）ので、その結果を会員の皆さまへ報告いたします。

将来の考え方は、家族構成、子どもの障害の種類および程度によって大きく異なり、正解はありません。今、私たちに出来る事は、将来の子どもの暮らしに関する情報を収集し、その子に適した方法を本人と一緒に模索していくことだと思います。今回のレポート研修会の結果の中には会員の皆さまと同じ考えも、異なる考えもあるかと思いますが、その多様性を認識し、ご自身が参考になる部分を見つけていただけますと幸いです。

【テーマに対する報告要旨】

テーマ：「10年後の将来のイメージさらにその先を見据えて、親・家族として今何をすべきか(いつまでに)」

親の気持ちに関する事項	
「親心の記録」(※)を記入する(今後)。	親なき後に本人のことが分かる資料を作る(今後)。
親なき後のノートを更新する(今後)。	困った時に頼れる人やルートを作る(今後)。
本人のための終活をする(10年以内、今後)。	エンディングノートに本人の死なせ方を書く(今後)。
遺言書作成の準備をする(今後)。	遺言書を作成する(半年～10年以内、今後)。
成年後見制度に関する事項	
成年後見制度について理解する(5年以内、今後)。	成年後見制度を検討する(1～25年以内、今後)。
成年後見制度について家族で話し合う(今後)。	後見人を決める(1～2年以内、今後)。
将来の生活に関する事項	
入所施設、グループホームまたは一人暮らしの場所を探す(5～10年以内、今後)。	施設やグループホームへ入所する(2～10年以内、今後)。
入所希望登録を行う(今後)。	グループホームを設立する(5年以内)。
本人が出来ることや経験に関する事	
お金の大切さを教える(今後)。	お金の使い方を学習させる(5年以内、今後)。
貯蓄を教える(今後)。	他の人との関わり方を教える(今後)。
料理を教える(5年以内、今後)。	家事が出来るよう教える(5年以内、今後)。
日常生活習慣を身につけさせる(今後)。	身辺自立出来るよう訓練する(5年以内、今後)。
入所施設を体験利用する(今後)。	短期入所を利用する(今後)。
主な支援者以外と行動できるよう、時間・頻度を増やす(今後)。	本人の就労先を探す(3年以内)。
健康・医療に関する事項	
定期的に健康診断を受けさせる(1年以内、今後)。	本人に体力をつけさせる(今後)。
保険に加入する(今後)。	健康保険の扱いについて家族で検討する(今後)。
福祉サービスや制度等に関する事項	
福祉サービスや制度について知る(1年以内、今後)。	福祉サービス等の不明な点を行政や施設に聞く(今後)。
信託制度を検討する(今後)。	
家族(主に兄弟姉妹)に関する事項	
本人の支援方法、金銭管理、相談相手などを既に兄弟姉妹へ伝えている。	本人に関する最終的な判断が必要となる場合がある旨を既に兄弟姉妹へ伝えている。
本人に関することを家族で話し合う(今後)。	兄弟姉妹の考えを知る(今後)。
本人の年金、財産管理および亡くなり方等について、親の考えを兄弟姉妹へ伝える(今後)。	兄弟姉妹はいるが、本人の世話はさせたくない。
その他	
子離れするよう努める(5年以内、今後)。	障害基礎年金の手続きをする(4年以内)。
墓地を準備する(今後)。	マイナンバーカードを申請する(今年3月まで)。
各段階で将来を見据え、計画を立てる(今後)。	「どうにかなるだろう」「まだ先のこと」と考えない(今後)。
障害に対する社会の理解を得るよう働きかける(今後)。	障害者福祉サービスの更なる充実を要望する(今後)。
今は具体的にイメージできない。	

※親心の記録：障害のある子をもつ親たちが、親なき後、子どもを支援してくれる方々に子どものことを知ってもらい、子どもが安心して人生を全うできるようにと作成されたもの(日本相続知財センターグループ)



ながいの見え方

第5回



平等なワクチン接種はむずかしい？

日立市手をつなぐ親の会 永井 立雄

新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、わが国でも猛威をふるい始めてから1年半。その間、緊急事態宣言の発出と解除が繰り返され私たちの生活は外出自粛とマスク着用が当たり前になってしまいました。そのマスクの争奪戦はすっかり落ち着きましたが今度はワクチン接種予約の争奪戦が世間を騒がせています。高齢者が何時間も電話をかけ続けるといのは何とも非効率です。みんな平等にという考え方が高齢者に大きな負担を強いているように思えてなりません。電話やネットが苦手な知的障害者にはどのような合理的配慮が提供されるのでしょうか。

ところで障害者差別解消法が施行されて以来、少しずつではありますが障害者差別に関する理解も深まり、ユニバーサルデザインや合理的配慮などの言葉が使われ始め、世の中もだんだん差別のない方向に向かっているのではないかと漠然と考えていました。コロナが出現するまでは……。

しかし現実はそのように甘くはありません。コロナの出現によって一部の人々の差別意識が牙を剥きました。電車やバスの中で咳をした人への暴言、マスクをつけられない人への嫌がらせ、そして現在ではアレルギーなどでワクチン接種を受けられない人への有形無形の圧力が問題になり始めています。

人はよく知らないものや、あまりなじみのないことに遭遇すると心が不安になり、ついつい差別的な行動に走ってしまうようです。外国でも新型コロナウイルスの蔓延に伴い人種的な偏見が表面化していることが報じられています。障害者差別の問題も、よく知らないものや、あまりなじみのないことへの不安や無関心が大きく影響しています。

折しも国会では障害者差別解消法の改正法案が可決され、懸案であった民間事業者の合理的配慮の提供が義務化されることになりました。この法律の施行はまだ少し先のことですが私たちも合理的配慮が着実に提供される社会へ向けての取り組みを進めていくことが大切だと思います。



特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立水戸特別支援学校（水戸市）



本校正面の外観

「理想の道を みんなで進む」これは、本校の校歌の一節です。本校に学ぶ180名の児童生徒は、「理想の道」を追求すべく、日々学びを広げ、深め、学校生活を送っています。

水戸特別支援学校は、県都水戸市にある肢体不自由教育を行う学校で、小学部から高等部までが設置されています。国道6号線沿いに建つ本校の近くには一里塚跡が残されており、古くからの街道筋だったことがうかがわれます。学校創立は昭和37年、県内でも歴史のある特別支援学校の一つです。通学区域は県央地域のほか、県北、鹿行地域です。隣接する病院からの通学や、併設されている寄宿舎を利用する児童生徒もいます。訪問教育で学ぶ児童生徒もいます。

今年度のグランドデザインは「一人一人の個性が輝く、ワクワクする学校に！～学校の外に出よう！～」です。コロナ禍は学校生活にも大きな影響を与えており、昨年度は様々な行事が予定通り実施できなかったのですが、「オンライン水陽祭（文化祭）」やバーチャル修学旅行、体験活動を交えた日帰りでの宿泊学習など、アイデアと柔軟な発想で内容を変更して行いました。様々な制約の中ですが、だからこそ人とのつながりを感じ、オンライン、オフラインにかかわらず体験を大事にしながら学んでいます。ICT教育も推進しており、昨年度には視線入力装置も整備されて日常的に使用できるようになりました。eスポーツ競技部も創部し、高等部生を中心に活動しています。今年度はGIGAスクール対応で小・中学部の児童生徒に一人一台タブレット端末が貸与され、調べ学習のほか、離れた教室や自宅等を結んだ授業でも活用しています。

変化の著しい現代社会を生き抜く力を身につけ、障害にかかわらず、本校での学びを生かして積極的に社会とつながりながら生きる児童生徒を育もうと取り組んでいます。一人一人の「理想の道」を歩むために…。



分身ロボット OriHime（オリヒメ）に夢中！



普段から授業でタブレット端末を使っています



進路学習週間 事務作業で依頼文書を作成中



オンライン水陽祭 クイズ大会に参加中～♪

令和3年7月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定	月	日(曜日)	行事予定
7月	10日(土)	育成会だより144号発行	10月	未定	第59回手をつなぐ育成会茨城大会 第1回知的障害者相談員研修会
	11日(日)	第55回関東甲信越ブロック群馬大会 (オンライン開催)		23日(土) ~25日(月)	第21回全国障害者スポーツ大会(三重県)
9月	未定	全育連・啓発キャラバン隊研修会 (仙台市・オンライン併用)	12月	2日(木) ~6日(月)	ナイスハートふれあい フェスティバル2021
	12日(日)	茨城県障害者スポーツ大会・笠松運動公園 (ソフトボール・バレーボール・サッカー・ フットベースボール)		2日(木) ~6日(月)	ナイスハート美術展
	18日(土)	茨城県障害者スポーツ大会・笠松運動公園 (レクリエーション競技)		3日(金)	学校教育の部発表会
	25日(土)	茨城県障害者スポーツ大会・笠松運動公園 (バスケットボール)		4日(土)	一般の部発表会
			10日(金)	育成会だより145号発行	
			2月	未定	第2回知的障害者相談員研修会 権利擁護委員会講習会
			3月	10日(木)	育成会だより146号発行

はじめまして。島田祐治と申します。今年の4月から「障害者差別相談室」で相談員として勤務しております。

以前は障害者施設や児童館で働いておりました。施設に入所している知的障害者の方の支援、働きながらグループホームで暮らしている方の日常生活の援助や就労のサポート、自宅でご家族と一緒に暮らしている発達障害を持った子供さんの療育などを経験してまいりました。

相談員の仕事は初めてで、至らないことが多く相談者や関係機関の皆様にはご迷惑をおかけしますが、障害者の権利擁護に携わる仕事ができることをたいへん嬉しく光栄だと思っております。

私はケーキや和菓子などの甘いものが大好きで、なるべく食べないようにしようと思いつつ、なかなか誘惑に勝つことができません。休日にはなるべく体を動かして健康維持に努めております。

皆様のご指導をいただきながら、1日も早く相談室の戦力となれるよう、また相談者の方たちのお役に立てるよう努めてまいりますので、どうかよろしく願いいたします。



島田相談員

「県立あすなろの郷」の施設建替動き出す !! 県手をつなぐ育成会

皆さんご承知のとおり、水戸市杉崎町に開設されている障害者支援施設「県立あすなろの郷」に関しては、建物の老朽化に伴う建替工事がいよいよ本格的に動き出したとの報道がありました。それによると、建替工事の基本設計が今年度中に取りまとめられ、来年度に実施設計、さらに建設工事を経て、令和7年度には新しい施設が供用開始されるとのことです。

基本設計では、障害者支援施設や病院、医療型障害児入所施設、療養介護事業所など延床面積は約2万㎡の県立施設が整備されるとのことです。

新しい施設では、入所者支援はもちろん、在宅障害者の日常生活支援や相談、病院の外来診療も行われ、より「開かれたあすなろの郷」になることが期待されます。

あすなろの郷は県の重度障害者支援の中核施設であることから、県及び事業団の皆様には、新しい施設の機能や運営について、あすなろの郷育成会の方とも連携しながら、「利用者ファースト」の支援とともに、将来的にお世話になる県内の在宅障害者の相談支援にも注力いただくよう大いに期待するものです。

今般、ワクチン接種も始まりましたが、依然として新型コロナの収束は見通せない状況が続いており、障害者及び保護者の不安は拭えませんが、あすなろの郷の建替工事が本格化することについては、県育成会としても明るい話題として歓迎いたします。

編集後記

令和2年(2020)・3年(2021)とコロナ禍によって、東京五輪が延期になり様々な諸行事が中止になり、手をつなぐ育成会の活動も停滞を余儀なくされましたが、国の方針により7月末までには65歳以上の高齢者がワクチン接種を終了し、8月上旬頃より一般の方々(64歳以下)にもワクチン接種が出来て、コロナ禍が収束するだろうという明るい兆しが見えて来たと思われます。(徳永)